

November 22, 2021

【前日の為替概況】ユーロドル 一時 1.1250ドルまで下落、ドル円も 113.59円まで下押す

19日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは反落。終値は1.1290ドルと前営業日NY終値(1.1371ドル)と比べて0.0081ドル程度のユーロ安水準だった。新型コロナウイルス再拡大による経済活動の抑制で、欧州景気の回復が遅れるとの懸念が強まりユーロ売りが先行。シュパーン独保健相が「国内の新型コロナウイルス感染状況が極めて深刻なため、ワクチンを接種した人も含めてロックダウンを排除できない」などと発言したことで、独ロックダウン入りへの警戒感も高まり、1.1250ドルまで下落した。しかし、「マース独外相は独全土のロックダウンの可能性について否定した」との報道が伝わると、投資家の過度なリスク回避姿勢が後退しユーロを買い戻す動きが広がり、1.1322ドル付近まで下げ幅を縮めた。

ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁は、「物価上昇への懸念をECBは非常に深刻に受け止めている」と述べたうえで、「来年の利上げは想定していない」との考えを改めて表明した。

ドル円も反落。終値は113.99円と前営業日NY終値(114.26円)と比べて27銭程度のドル安水準。新型コロナウイルス感染再拡大で欧州経済の回復が遅れるとの懸念が強まる中、欧州株相場や時間外のダウ先物が下落すると、リスク・オフの円買いが先行。米長期金利の低下に伴う円買い・ドル売りも入り、113.59円まで下落した。ナイト・セッションの日経平均先物が軟調に推移したことも相場の重しとなった。しかし、独ロックダウン入りへの警戒感が和らいだほか、米下院が1兆7500億ドル規模の気候変動・社会保障関連歳出法案を可決したことなどで下げ渋る展開となった。

ウォラーFRB理事が「持続的な高インフレや堅調な雇用の伸びを踏まえて、FRBはテーパリングペースを加速させ、予想よりも早期に利上げを実施する用意を整える必要がある」との見解を示すと、米利上げ前倒し観測が高まりドル買い戻しを誘った。クラリダFRB副議長が「12月FOMCでテーパリングの加速について議論することが適切となる可能性」と発言したことも支援材料となり、114.07円付近まで反発。

ユーロ円は大幅反落。終値は128.71円と前営業日NY終値(129.93円)と比べて1円22銭程度のユーロ安水準。欧州景気の下振れ懸念が強まり一時127.98円と9月22日以来の安値を付けた。ただ、独ロックダウン入りへの警戒感が和らぐと129.05円付近まで急速に値を戻した。米株式市場でダウ平均は一時300ドル超下落したものの、ナスダック総合は連日で史上最高値を更新。米国株が比較的底堅く推移したことも投資家の過度なリスク回避姿勢を和らげた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、原油価格の下落と米長期金利の低下で上値が重い展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、WTI原油先物価格が75ドル台まで下落し、米10年債利回りが1.54%台まで低下し、ダウ平均が268ドル安で引けていることで、上値が重い展開が予想される。

WTI原油先物価格が一時の高値85ドル台から75ドル台まで反落していることで、主要国中銀のハト派の「インフレ高進は一時的」とする見解が優勢となる可能性が高まっている。原油価格反落の要因としては、世界的な新型コロナウイルス感染再拡大を受けた需要減の可能性、米国による中国、インド、日本への戦略石油備蓄(SPR)放出要請、OPEC事務局長による、12月にも原油が供給過剰に転じるとの見方などが挙げられる。

また、バイデン米大統領は、今週25日の感謝祭までに次期FRB議長を指名すると述べており、関連ヘッドラインに要警戒となる。もし、ハト派の急先鋒であるブレイナードFRB理事が指名された場合、バイデン米大統領による利上げ抑制の意図が示唆されることで、米連邦準備理事会(FRB)による来年11月の中間選挙の後までの利上げ先延ばしの可能性が高まることになる。さらに、ブレイナードFRB理事は、オバマ政権の時の財務次官時代は、ドル高を牽制する傾向にあるドル安論者だったことも警戒材料となる。

なおイエレン米財務長官は、第15代FRB議長時代に、インフレ高進の下でも低金利を継続するという「高圧経済政策」を提唱しており、金融・財政面でのハト政策が打ち出される可能性が高まる。

米国では12月3日に暫定予算の期限が到来し、イエレン米財務長官が連邦政府の債務上限引き上げの期限が12月15日になる見通しを示したことで、連邦債務上限引き上げと予算審議が紛糾する可能性が高まっている。米国の政治的な不透明感も、ドル円の上値を抑える要因となる。

ドル円のテクニカル分析では、日足でも週足でも、高値圏での反落の可能性を示唆する逆行現象(弱気の乖離:ベアリッシュ・ダイバージェンス)が出現し、ダブル・トップ(114.70円・114.97円)の可能性が示唆されていることも、ドル円の上値を重くしている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

特になし

<海外>

- 17:30 ◎ 10月香港消費者物価指数（CPI、予想：前年同月比1.9%）
- 23:00 ◎ ホルツマン・オーストリア中銀総裁、講演
- 24:00 ◎ 10月米中古住宅販売件数（予想：前月比▲1.4%/年率換算620万件）
- 24:00 ◎ 11月ユーロ圏消費者信頼感指数（速報値、予想：▲5.2）
- 23日 03:00 ◎ 米財務省、2年債・5年債入札

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

19日 14:12 関係筋
「マンチン上院議員は、パウエルFRB議長に続いてブレインードFRB理事との面談を求めている」

19日 02:42 クラリダ米連邦準備理事会(FRB)副議長
「12月FOMCでテーパリングのペースについて議論することが適切となる可能性」

19日 16:18 岸田首相
「経済対策の財源、赤字国債を含めあらゆるものを動員」
「消費税に触れることは考えていない」
「金融政策、日銀の今後の取り組みは日銀が判断すること」

※時間は日本時間

19日 16:42 中国外務省
※台湾がリトアニアに代表機関を開設したことについて
「中国は主権を守るためにあらゆる必要な措置を講じる」
「リトアニアは自らがしたことの代償を払わなければならない」

19日 17:25 李克強中国首相
「人民元のレートは基本的に安定している」
「中国経済は新たな下落圧力に直面している」
「高い商品価格の圧力を軽減するための措置を講じる」

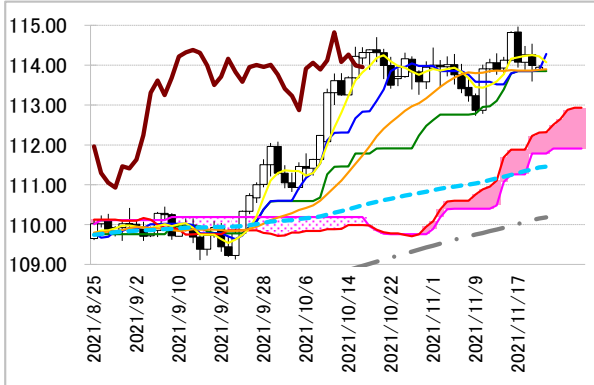
19日 17:29 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁
「早まって金融引き締めを急いではならない」
「インフレ率は年末までさらに上昇する」
「永続的に2%の価格目標を達成する必要がある」

19日 17:25 スパン独保険相
「国家的な緊急事態に陥っている」
「新型コロナの感染状況は先週よりも深刻」
「ワクチン接種だけでは十分ではない」

19日 23:19 バイトマン独連銀総裁
「高インフレのリスクを無視すべきではない」
「インフレに注意し続ける必要」
「金融政策は現在の緩和的スタンスについて、長期間コミットすべきではない」
「必要なら金融政策全体を正常化する必要」

19日 00:50 ウォラー米連邦準備理事会(FRB)理事
「雇用の増加とインフレでテーパリングの加速を支持する」

〔日足一目均衡表分析〕

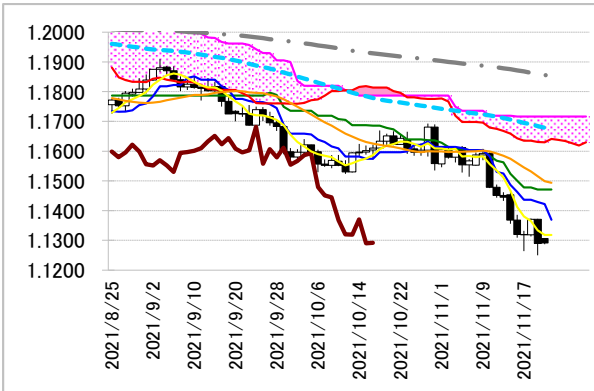


<ドル円=11/19 高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。遅行スパンは実線を下回っているものの、一目・転換線は基準線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかし、高値圏での抱き線や逆行現象などで反落しており、続落の可能性が示唆されている。

本日は、11月19日の高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	114.97(11/17 高値)
レジスタンス 1	114.54(11/19 高値)
前日終値	113.99
サポート 1	113.26(10/28 安値)
サポート 2	112.73(11/9 安値)

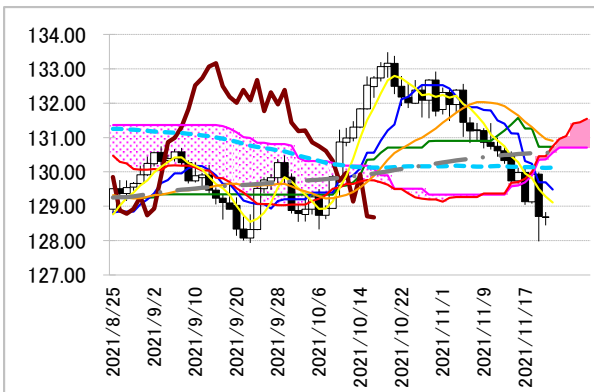


<ユーロドル=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。抱き線で反落して、転換線を下回って引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1423(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1290
サポート 1	1.1185(2020/7/1 安値)

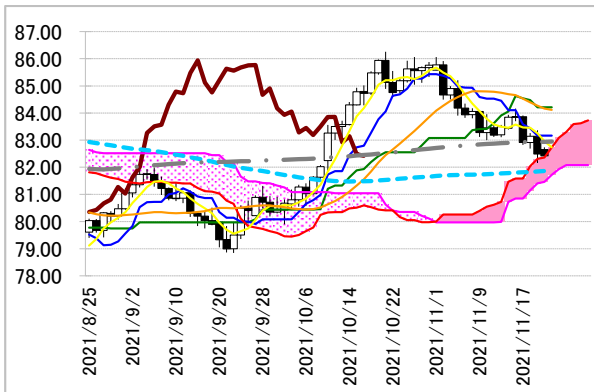


<ユーロ円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

大陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。抱き線で反落して、転換線を下回って引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	129.70(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	128.71
サポート 1	127.98(11/19 安値)



<豪ドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の上で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開。抱き線で反落して、転換線を下回って引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	83.16(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	82.49
サポート 1	81.46(日足一目均衡表・雲の下限)

